土砂災害を知っておきましょう!

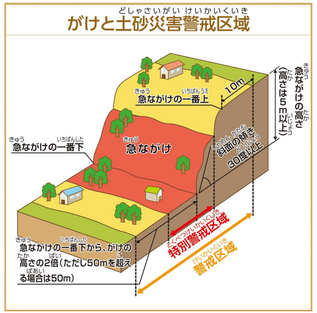
土砂災害には3つの種類(がけ崩れ、地すべり、土石流)があります。白井市では、がけ崩れ(急傾斜地の崩壊)が起きるおそれがある場所があります。
台風などで大雨が降った時に水が地面の中に入り、がけ(斜面)が急に崩れ落ちることがあります。

土砂災害が起きるかもしれない場所には、次の2つの区域があります。この2つの区域に入っている場所は危ないです。
地図を見て、どの場所が入っているかよく見ておきましょう。

あぶない!
土砂災害警戒区域(イエローゾーン)
土砂災害が起きるかもしれない場所です。

とてもあぶない!
土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)
建物が壊れるかもしれません。
大きな被害が起きるかもしれない場所です。

がけと土砂災害警戒区域



土砂災害が起きるかも?

ふだんと変化がないか、よく見てみましょう

がけ崩れが起きる前は、山や斜面(がけ)がいつもと違うことがあります。
次のようなことを見たり聞いたりして、危ないなと思ったら、すぐに逃げてください。

斜面にひび(割れ目)が入る

いつもは水が出ていないのに、水が出ている

小さい石が、上からパラパラと落ちてくる

避難する(逃げる)必要があるか? どこに避難するか? 確認しておきましょう!

あなたはどこに避難する?

必ずやってください!

※このハザードマップは、大雨で洪水が起きたときに水がくる場所(浸水する場所)や、土砂災害が起きるおそれがある場所に、色をつけた地図です。

ハザードマップ®で自分の家がどこにあるか確認しましょう。

家があるところに色がついていますか?

- いいえ → 洪水による浸水と土砂災害のおそれはありません。逃げなくても大丈夫です。(しかし、あくまで想定です。避難情報を集めて、逃げなくてもよいか、自分で決めましょう)
- はい → 災害の危険があるので、基本的には家の外(避難所など)に逃げてください。
  - ただし → 次にあてはまる人は、自分の家で安全に過ごす(生活する)ことができます。

水に浸かる深さよりも、高いところに住んでいる人

生活に使う水や食べ物があり、家の周りの水がなくなるまで過ごすことができる人

警戒レベル3や4が出されたら、危ないところからすぐに逃げましょう!

自分のいる場所(自分の家など)が安全な場所ならば、避難所に行く必要はありません。
自分の家の安全な場所に避難する(在宅避難)ことも避難方法の一つです。

避難するところは、学校や、みなさんのための建物(公民館など)だけではありません。
安全であれば、家族や知っている人の家などに避難することも考えてみましょう。
※災害が起きる前に、家族や知っている人とよく相談しましょう。

避難する(逃げる)ときには、次のことを心がけてください。

1 安全に逃げられる道(ルート)を確かめましょう

避難所までの道は、あらかじめ自分たちで決めておきましょう。その道を一度歩いてみて、安全かどうか確かめてみましょう。

2 非常用持ち出し品をあらかじめ用意しましょう

避難するときは、物をたくさん持ちすぎないようにしましょう。また、事前に準備しておきましょう。チェックリストを使ってください。

3 正しい情報を集めましょう

テレビ・ラジオなどから、新しい情報(天気について、災害について、避難について)を集めましょう。

4 雨が強くなる前に避難しましょう

避難についての情報が夜に出ることもあります。雨が強くなる前に、避難所や、安全な場所にいる家族や知っている人の家に避難しましょう。

5 避難のお知らせに気をつけましょう

危険になりそうなときには、市役所や水防団(消防団)から避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあったときは、すぐに避難しましょう。

6 お年寄りなどの避難を手伝いましょう

お年寄りや子ども、病気の人、障がいのある人(体の具合が悪い人)は、早めの避難が必要です。避難を手伝ってあげましょう。

7 避難するときは、動きやすい服や靴で2人以上

避難するときは、動きやすい服や靴で、2人以上で歩きましょう。水の下には、段差や穴があるかもしれません。長い棒で地面を確かめながら歩きましょう。

8 堤防に車を置いたままにしない

川のそばでは、水があふれることを防ぐための作業をします。車を堤防や道路に置かないようにしましょう。

水平避難と垂直避難

避難には2つの方法があります。その時の状況によって、どちらにするか決めましょう。

① 水平避難(横に逃げる)

自分がいる場所から離れて、安全な所へ逃げることです。
今の場所にいると危ないと思ったら、水のこない避難所など安全な建物に早く逃げましょう。できるだけ早く、雨の予報や川の水の高さなどの情報を知ることが大切です。

② 垂直避難(縦に逃げる)

自分がいる建物や、まわりの丈夫な建物の上の階へ逃げることです。周りで水があふれ始めたり、外に出ることが危ないときは、自宅の2階など高い所に逃げましょう。近くにがけがある場合は、がけと反対側の高い所に行きましょう。